

【現状説明】

《大学院》

共通	各研究科では主に、栄養科学研究科は大学、教育学研究科は教育機関、流通科学研究科においては、小売業等に就職しています。
----	--

《大学》

栄養科学部	栄養科学科については病院・医院への就職者は 34 名（昨年度 29 名）と増え、食品関連企業を中心に企業への就職者が 63 名と（昨年度 54 名）増加しました。主な就職先は、マルハニチロ、丸大食品、ピエトロなどです。また、九州電力など食産業以外の就職者も増加しました。公務員の合格者は福岡県や公立病院の管理栄養士、食品衛生監視員、行政事務など昨年度より増加し、家庭科教諭にも 5 名合格しております。 フード・マネジメント学科は決定率が 100%となり就職希望者全員の就職先が決定しました。3 年次の夏から積極的にインターンシップに参加し、早期からの就職活動への取組みが高い就職率に繋がり、多くの学生が九州圏内の食産業に携わる企業に就職を決めております。主な就職先は、久原本家グループ本社、岩田産業、一番食品、森永乳業九州、大陽製粉などです。公務員は行政事務 3 名、北九州市の食品衛生監視員に 1 名が合格しております。
教育学部	小学校教員採用試験：教員採用試験に 135 名（昨年度 120 名）が合格し、現役合格率 94.4%（前年度 85.1%）となり、合格者数、合格率とも過去最高となりました。 幼稚園・保育園等は約 750 件の求人を受理するなど好調です。また、公立の保育所合格者は 3 名となりました。
流通科学部	就職決定率は昨年度を上回り好調でした。九電工、福岡銀行、西日本シティ銀行などの地場の知名度が高い企業に加え、ANA福岡空港やニューオータニ九州などコロナ禍の影響を受け採用を中断や縮小していた業界が本格的に採用活動を再開し就職しています。また、公務員に 3 名合格しました。

《短期大学部》

食物栄養学科	就職決定者の 66.1%（昨年度 78.0%）が保育所を中心に栄養士として就職しました。食品関連企業を中心に企業系希望者が増加し、企業への就職者の割合が 33.9%（昨年度 22.0%）と増加しました。
キャリア開発学科	就職決定率は 99.1%と昨年に続いて好調でした。主な就職先として、富士通や福岡銀行の学校推薦求人で就職を決定した学生に加え、ソニーセミコンダクタソリューションズ、立川ブラインド工業、パナソニックエレクトリックワークス社など大手企業にも決定しました。
幼児保育学科	就職率は 100%となり、大学生と同様に約 800 件の求人を受理するなど好調でした。公立保育所には 3 名が合格しました。